

## 学校法人ひまわり幼稚園 幼稚園型認定こども園 ひまわり幼稚園（山梨県）

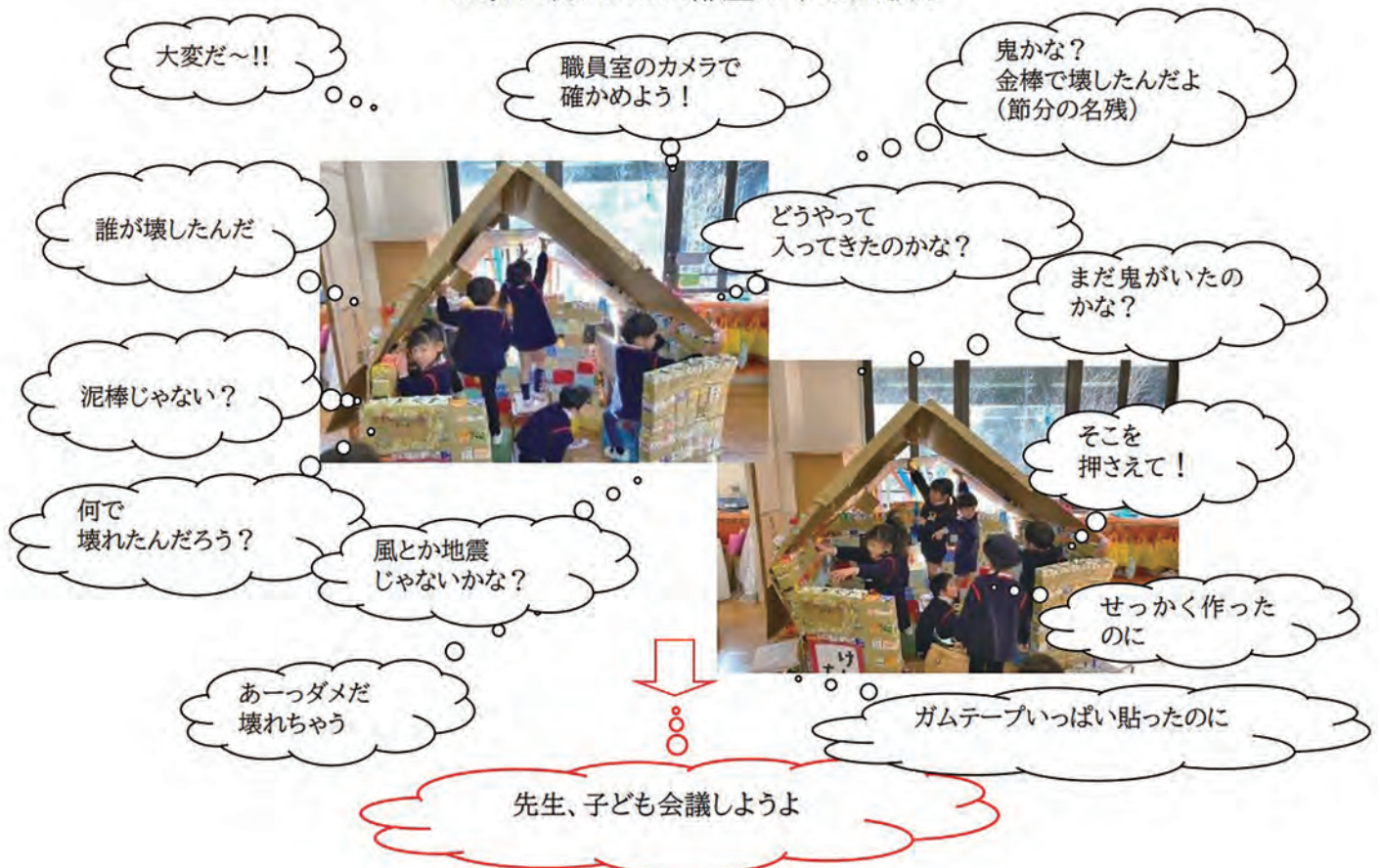
子どもの興味や関心に、大人も興味をもって共に楽しむことは、子どものやってみようを支えます。また、失敗や上手くいかない経験、葛藤や喜びを丁寧に記録に残し、多様な素材、教材、人との出会いをデザインする。そのような繰り返しから、「科学する心」は育まれていきます。本物らしさへのこだわり、そこには、子どもの更なる気づきや意欲が広がっています。

## 「みんなのお家」（4歳児／12月～3月）



家庭から持ち寄るたくさんの廃材を前に、みんなで何かつくろうか？という会話から活動が始まった。父親が建設会社を営んでいるK児が「設計図書いてみるよ。」と言い出し、この設計図を基に牛乳パックを並べお家の壁作りがスタートした。

～お家が壊れた!!お部屋の中は大騒ぎ～



## 屋根が壊れた・ハプニング発生! 4歳児 2月

お家が完成して数日がたったある朝、登園するとお家の屋根が崩れ始めていた。隣のクラスに聞きに行ったり、職員室の防犯カメラの映像をチェックしたり大騒ぎになっていた。

## 初めての子ども会議 4歳児 2月

会議は（子ども会議の）提案者Y児中心に進めていった。テーブルの配置、進行も子どもたちに任せていくことにした。時折保育者が進行の整理をする必要もあったが、クラス全体が“自分の事”“みんなの問題”と感じているようだった。最終的に「お家を直そう!」ということに決まった。

=お父さんと一緒に=

このお家すごいな～！  
みんな、すごいことをし  
たね。

牛乳パックを使ったことは  
とても良かった。

今度作る時には縦に並べず  
互い違いするといいいよ。

屋根は乗せるだ  
けではダメだ



壁の形は同じに  
そろえて

この屋根には、補強の  
柱を入れておこう。  
ガムテープより結束  
バンドがいい。



家を作る時には基礎、  
土台が大事なんだ。

町で壁に✕がある建物  
見たことあるかな？

壁が弱い時にすぐに  
屋根をつけると家は  
壊れてしまう。

もし、壁が倒れたら補強するといいい  
この✕のことを筋交いって言うよ

## お父さんたちすごい 4歳児 3月

K児のお父さんとI児のお父さんに来ていただくことにした。建設のプロであるK児のお父さんが、子どもたちの「みんなのお家」を最初に誉めてくれたことは子どもたちの意欲をより高めたようだった。同時に壊れないお家のポイント、「基礎（土台）支える柱、牛乳パックは縦より横に置き互い違いにする、弱い壁には補強、筋交い、重たい屋根を支える柱、それを止めるのにはガムテープより結束バンド」など子どもたちにとって、初めて知る方法や知恵がたくさんあった。壁が出来たらすぐに屋根＝完成と思っていた子どもたちにとって「基礎（土台）が何より大切」の言葉には驚きの表情だった。

## 先生に聞いてみました

「ひまわり幼稚園の保育を専門分野の先生方がどう捉えてくださるか、保育の記録を論文にしてソニーの教育プログラムに募集してみたいと思います。プロジェクトチームを作ってください」主任の佐藤先生が長年の思いを声に上げ始めた第一回目の記録発表。7人のメンバーがワクワクしながら、それぞれに思いを語り合いました。論文の内容・形・ポイントなど、外部の先生に指導していただくべきか迷いましたが、先生たちの思いを大切にを進めることを重点に置き、プロジェクトチームみんなで構成を繰り返しながら進めることにしました。その過程で主任を中心とする先生たちの『科学する心を育てる』のとらえ方や考え方がさらに深まり、「子どもの興味に先生も興味をもって楽しむ保育」が現場にも大きく広がっていきました。山あいの小さな幼稚園の先生たちの挑戦は、論文の結果ではなく、その時点で先生たちひとり一人の、そして幼稚園の大きな成長でもありました。

先日、巣から落ちてしまったひな鳥を子どもたちが拾い上げ「温めてあげよう」「お水あげよう」「お腹すいてるかも」元気がなくなり目を閉じるようにするひな鳥に「ご飯食べないと死んじゃうよ」「きっと、ママにあいたいんだね」みんなでたくさん考え、先生からタブレットを借り鳥の種類を調べ鳴き声を聞かせました。なんとその声に反応し小さな口を開け餌を食べ始め、近くに来ていた母鳥のもとに飛んで行きました。泣きながらそのひな鳥に手を振る子どもと共に、子どもたちの力を見守った先生たちがいました。興味を持って挑戦する時の時間と環境はとても大切、その挑戦はきっと多方面での学びとなり、さらに次へと進んでいきます。

「科学する心」が育っていくことは、人生を豊かにしていくことへと繋がっていくと思います。そして、それは生まれた時から大人の今も続いていると私は感じます。

## ↓ 論文全文はこちら



経験に経験を重ねる  
～心動かす経験が  
豊かな感性を育む～

